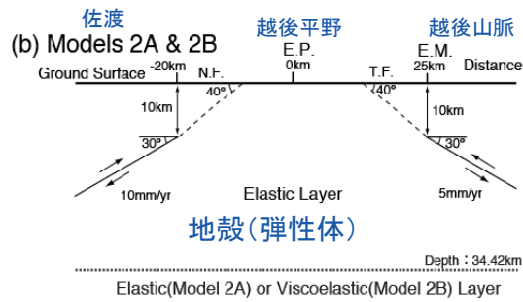
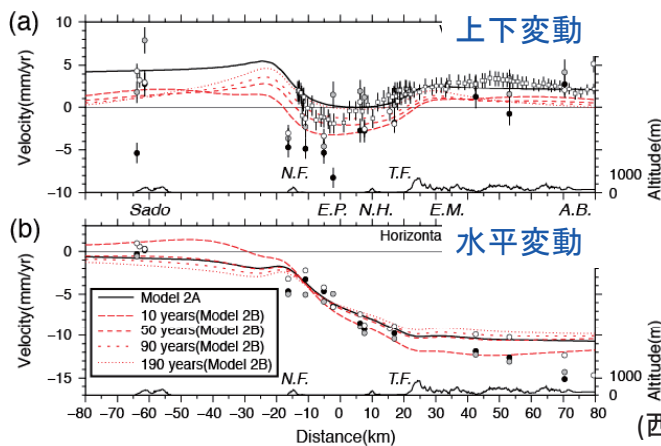


運動学的モデル(越後平野)

モデルの幾何形状



計算結果



- 地殻全体を貫く比較的高角な逆断層の深部滑り(Iio and Kobayashi, 2002 など)を仮定.
- 断層の細かな位置については、試行錯誤的にデータを説明するように仮定.
- 弾性体モデルは、粘弾性体モデルの地震後50-90年のパターンと概ね一致しているが、上下変動の絶対値は大きく異なる.
- 粘弾性体モデルでは、余効変動として沈降が生じ、越後平野付近の沈降を定性的に説明.
- 地震時の上盤側の隆起が長期的に支えられないために、超波長の沈降が生じて、下盤側で沈降が生じると考えられる.

(西村・他, 2012)

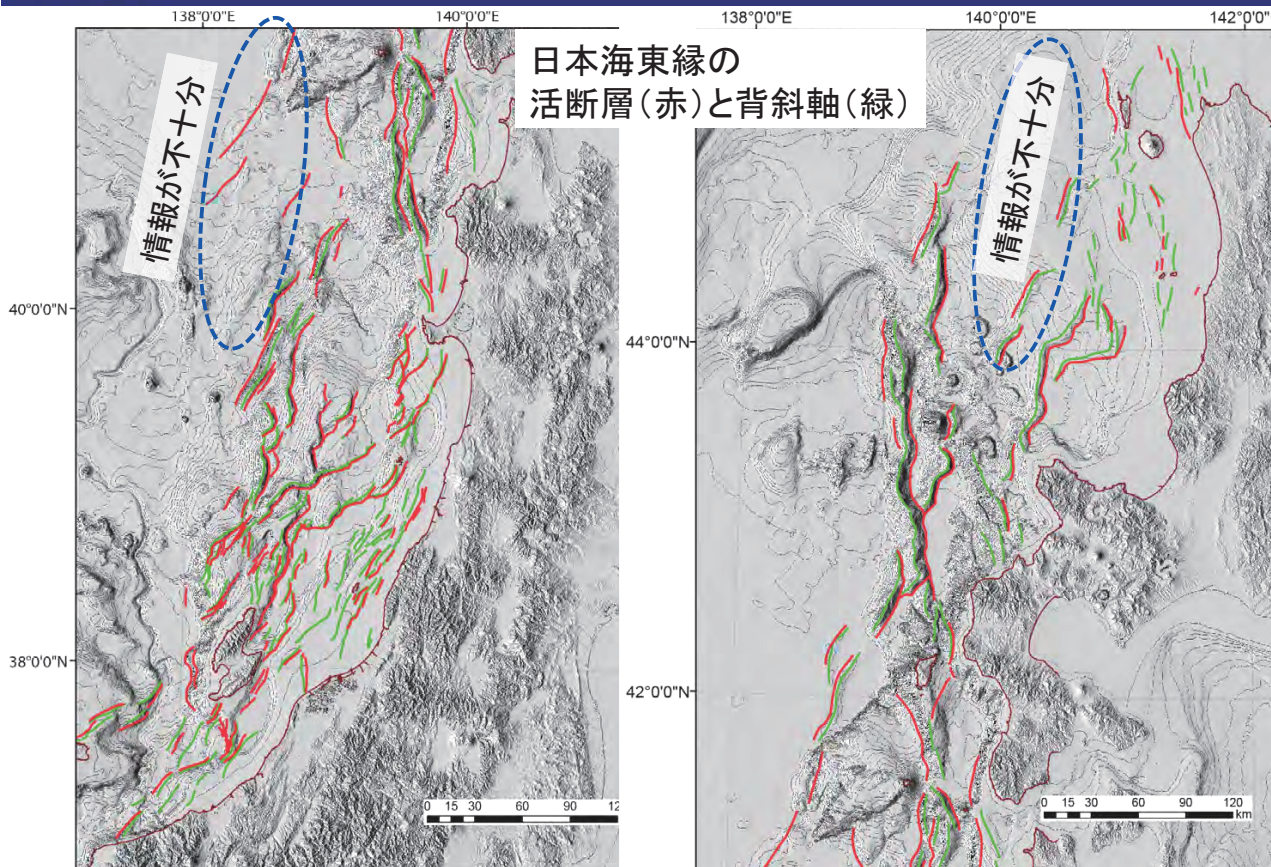
京都大学防災研究所 西村卓也 資料

第199回地震予知連絡会プレス資料

2013年5月30日

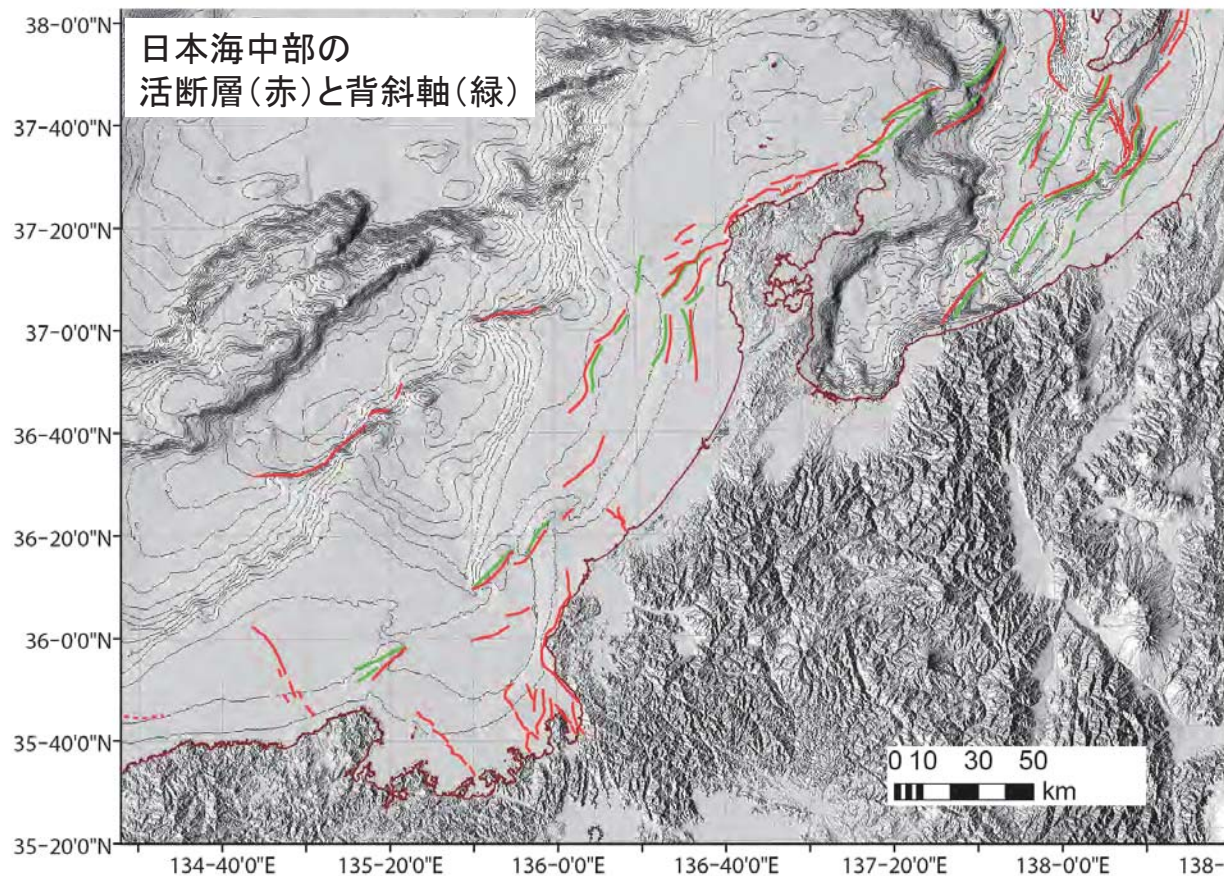
AIST

活断層・地震研究センター



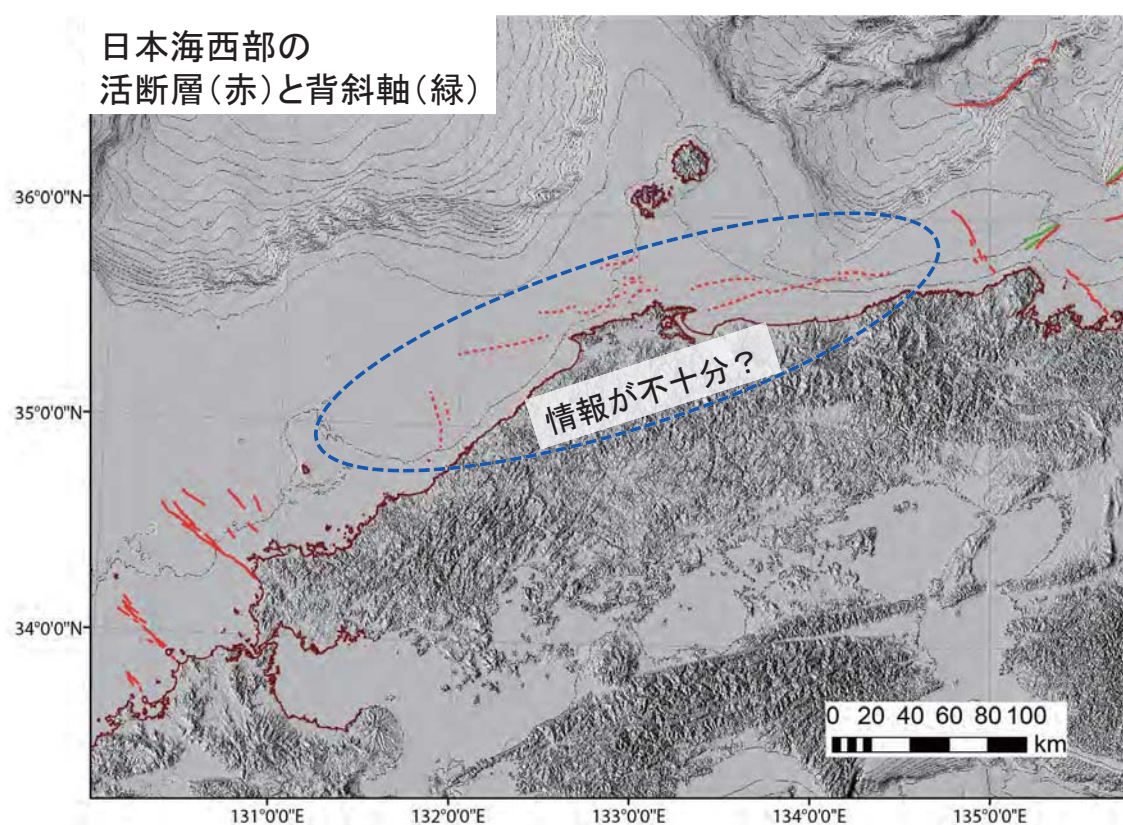
独立行政法人 産業技術総合研究所

1



独立行政法人 産業技術総合研究所

2



独立行政法人 産業技術総合研究所

3